

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
豊川(イオンモール豊川)	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	豊橋駅前～イオンモール豊川	11.6 km	7.9 回	豊橋市 豊川市 0 0
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

<接続する系統>
名古屋鉄道本線・豊川線、JR東海道本線・飯田線、豊橋鉄道渥美線、豊鉄バス(伊良湖本線)

<接続される系統>
豊鉄バス(豊橋市内路線)、豊橋コミバス(①しおかぜバス②かわきたバス)、豊川コミバス(③ゆうあいの里八幡線④小坂井線⑤音羽線⑥御津線)

模式図(△□)

2. R6年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)
計画どおり運行されたか(△)	計画どおりか。そうでない場合は理由	
評価	A	
補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。		

目標・効果達成状況		運営主体の所見、理由分析、認識(△)	
評価	A	市町村名: 豊橋市	市町村名: 豊川市
目標の達成状況(△)	目標 53,907 実績 61,606 達成率 114.3%	利用者数は対目標値114.3%、対前年99.6%となった。他系統も含めた豊川線全体では、前年に対して定期は88.6%、定期外は104.7%となり、定期外利用者が増加していることから、大型商業施設などへの買い物利用のお客様に利用して頂いていると考えられる。	
要因	定期外利用者の増加	市町村の所見、理由分析、認識(□)	
運行事業者の所見等(△)		市町村名: 0	市町村名: 0

複数市町村を跨ぐ系統としての役割		住民の利用状況(□)			
指標(市町村を跨いでの利用)	市町村を跨ぐ利用者数(△) 2,175 人/月	市町村名: 豊橋市	市町村名: 豊川市	市町村名: 0	市町村名: 0
	全利用者に占める率(△) 39.3 %	主に豊橋市・豊川市への通勤、買い物、通院などの移動手段となっている。			
特記事項	豊橋市と豊川市を跨ぐ利用者と率。推定値。	主として豊橋市、豊川市相互間の通勤・通院・買い物利用など、住民の生活の足として利用されている。			

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R6年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
A	沿線市の公共交通イベント時に、ICカード導入を見据えた乗り方教室の実施。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
改善点とした事項(△)		市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知を行った。	豊鉄バス新豊線・豊川線の時刻表を豊川市バスマップ及びHPに継続掲載したほか、市内の主要施設において豊鉄バス新豊線・豊川線の時刻表を配布した。		
事業者、市、地元自治会等が連携し利用促進に努める。	東三河地域公共交通活性化協議会と連携し、夏休み小学生50円バスと「公共交通をつかったオリジナルツアー大募集」などを実施。	東三河地域公共交通活性化協議会とも連携し、夏休み小学生50円バス、「公共交通をつかったオリジナルツアー募集」、「公共交通利用促進ポスター&川柳コンテスト」を実施した。	東三河地域公共交通活性化協議会とも連携し、夏休み小学生50円バス、「公共交通をつかったオリジナルツアー募集」、「公共交通利用促進ポスター&川柳コンテスト」を実施した。		
関係者の連携等(△□)					
	その他の取組				

4. 今後の課題

課題と認識している事項					
運営主体(△)		沿線市町村(□)			
沿線の地元住民への情報提供を充実させていく必要がある。また、沿線市と協力しコミバス等の乗継案内を充実していく。		市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
		公共交通の維持・強化、利便性を向上させ、新たな利用の創出及び定着化を図る必要がある。	利用者数維持・更なる利用者確保のための工夫が必要である。当該路線とコミュニティバスの乗り継ぎの利便性向上や、利用促進の取り組み、周知等が必要である。		
運行事業者(△)					

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組					
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
R7年度、R8年度に行う取組	令和7年3月に導入予定の交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
		交通系ICカード導入に向けた周知を効果的に行い、利用者の利便向上を図る。MaaS推進によるデジタル環境の充実の取り組みを行う。	交通系ICカード導入前後の周知を徹底し、利用促進を行う。利用者の利便向上を図る。		

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

沿線市町村(□)				
目標	市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
	目標未記載	目標未記載		
自己評価	生活交通確保計画では「収支率1%以上向上」を目標としているが、昨年度は令和5年3月に大型商業施設が開業したことに伴う路線延伸により、収支率が大幅に向上したため、本年度はその収支率を上回ることができなかった。今後も運営主体及び関係自治体と連携した沿線施設の紹介や利用促進等を行い、新規の利用者の獲得を図っていく必要がある。	生活交通確保計画では「収支率1%以上向上」を目標としているが、昨年度は令和5年3月の大型商業施設開業に合わせた路線延伸により収支率が大幅に向上したため、それを上回る率とはならず、達成できなかった。今後も運営主体及び沿線市と連携し、継続し利用促進を行い、利用者の確保を図る必要がある。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名： 豊橋市	市町村名： 豊川市	市町村名： 0	市町村名： 0
フィーダー系統である豊鉄バス「三本木線」と豊橋市コミュニティバス「しおかぜバス」、「かわきたバス」に豊橋駅で接続している。	イオンモール豊川で豊川市コミュニティバス(ゆうあいの里八幡線、小坂井線、音羽線、御津線)、豊川市民病院で豊川市コミュニティバス(ゆうあいの里八幡線、小坂井線、音羽線、御津線)、豊川体育館前で豊川市コミュニティバス(小坂井線)と接続している。		

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください